Ça va? ⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇ 人生は喜劇 ⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆Junko Higasa

読売新聞紙上で『喜劇王と井上ひさし』(鵜飼哲夫)という文章を読んだ。喜劇王とはチャールズ・チャップリンのことである。映画で 3 分弱の場面に NG700 回以上を出して完璧性を求めたチャップリンと、時には軽トラック一杯分の資料を集め、時には使った資料は集めた中の 1/300 だったという井上ひさし。『圧政や差別、人間の不在と戦った 2 人の喜劇人にとって笑いは、つらい世界と戦うための武器でもあったのだ』と書かれているが、両氏は不遇な子供時代を過ごした離婚経験者である。強烈な個性を持つ芸術家ばかりでなく一般的にも見て取れるように、社会的・家庭的に恵まれなかった子供の非婚・離婚率は高く、その寂しさの反転か「人を笑わせる」人が多いようだ。そういうことを知っているせいか、私は笑いをもらう時、ふと一種の寂しさを感じることがある。単純に笑えるユーモアとシリアスを含む笑いは明らかに違う。笑いながらそこに含まれる思考に触れるものがあるときの笑いは深い。笑いの中には涙が潜む。けれどそれは悲しみの涙ではなく「何とか生きているよ」というメッセージを含んだ希望の涙なのだ。そしてそういう人達が目指すのは心を開放する計算された上質な笑いである。人生は悲劇である。だが、そこにたどり着くための人生は喜劇である。人は「生」の中であらゆる喜劇を演じながら「死」という非劇にたどり着く。

さて、それではシャンソン・フランセーズにおける「笑い」とはどんなものだろう？フランス語「comédie コメディ」は喜劇に限らず「劇・演劇・戯曲」を意味し、役者を「comédien コメディアン（女性形は comédienne コメディエンヌ）」と呼ぶ。そしてシャンソン・フランセーズの「笑い」といえば、ロートレック描く「ムーラン・ルージュ」のポスターに登場するキャバレ歌手で女優であったイヴェット・ギルベール(Yvette Guilbert)」が頭に浮かぶ。因みに日本語の語尾を伸ばした「キャバレー」は酒席接待的低俗イメージであるが、フランス語でいう「Cabaret キャバレ」はダンスやコメディが観られるレストラン、ナイトクラブ」を意味する。19 世紀末から第一次世界大戦までの「ベル・エポック期」(パリが華やいだ時代)に、貧しく育った彼女は恋愛を歌うと共にパリの貧困をも歌った。それまでの既成概念を破った歌で人気を博したが、中でも「辻馬車」は今なおお口に上る。シャンソン・フランセーズに含まれる笑いは日本語で「アイロニー（皮肉）」と訳される「ironie イロニー」である。ギリシャ語の「ειρωνεία イロニア」に語源を持つこの言葉は「表面的なものに隠された本質」を意味する。浮気相手と逃げる馬車を追ってきた夫を偶発的にその馬車で轢いてしまう「なんてこった！」という場面で吐露される正直な心情を歌った「辻馬車」も悲劇を含んだ喜劇である。笑わせるための緻密な計算があるから表現できた皮肉である。この時代の歌が味わい深いのはそのためだ。

ところで最近のシャンソン・フランセーズは本質を内包するというよりも直接訴えかける意味合いが強いように思う。それは情報過多文明社会のある程度平和である者たちがする代弁である。そこには「圧政や差別」に対する戦いはあっても「人間の不在」に対する憤りはあまり感じられない。それでも人は、小さなコロニーを増やして「鶏頭」を多く作る闘鶏的社会へ言葉の代わりに歌で訴える。心の扉をほぼ全開にできる「笑い」に飛び込める表現はどれ程あるだろうか？(2013.5.18)

⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊇⊇⊆⊇⊇⊆ *Ça va, merci. Et toi?*